第10回　八戸市史跡是川石器時代遺跡整備検討委員会

日　　時　令和4年3月7日（月）午後1時30分～3時30分
場　　所　八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館 体験交流室
出席委員　4名
　岡村道雄委員長　髙田和徳副委員長　辻誠一郎委員　馬場光久委員
オブザーバー
　荒谷伸郎文化財保護主査（青森県教育庁 文化財保護課）
事　務　局
　工藤館長　松橋副館長　渡参事　小久保副参事

次　　第
　1．教育部長挨拶
　2．委員長挨拶
　3．会　議
　　(1) 工事の進捗について
　　(2) 第1期整備事業について
　　(3) その他

案件(1)　工事の進捗について
（事務局説明）

岡村委員長：何かご質問、ご意見ありますか。よろしいですか。
歴史民俗資料館の下部をもう1回発掘するわけですか。具体的にどこに何が残っている可能性があるのですか。あるいはどんな掘り方、どのような範囲をどのように掘っていくのですか。

事　務　局　：歴史民俗資料館の全体計画図をご覧ください。資料館の西側あるいは北側に土坑墓群が展開していることが過去の調査でわかっております。1972年の発掘調査ではみつからなかった竪穴建物や土坑墓が残っている可能性がある場所と考えております。ただ、発掘調査としては、建物の基礎梁の合間をぬって史跡の状況を確認する程度になりますので、遺構検出に努め、みつけた場合は保護して埋め戻していくような調査になると考えております。

岡村委員長：少しは掘らないのですか。いつでも発掘調査ができる状態になるのでしょうか。

事　務　局　：今後は盛土をして保存をする場所になります。

岡村委員長：盛土を外せば、いつでも発掘調査ができるということですね。

事　務　局　：はい。

岡村委員長：ここは墓の列が広がっていて、晩期の遺跡らしい小判型の墓地がみつかっていますね。なかには人骨が残っている墓もあったと思います。状態の良好な墓を確認できる機会にもなると思います。

是川では竪穴住居の状況があまりわかってないですよね。中居遺跡では、実態として竪穴住居が同時期に２棟程度でしたよね。

事　務　局　：６棟みつかっています。

岡村委員長：単一の同時期には１棟か２棟ではないでしょうか。この竪穴住居数ではとても拠点集落とはいえないという払拭できない疑問があります。世界遺産という点では、拠点集落あるいは代表的な巨大集落という触れ込みがあると思います。是川石器時代遺跡ではそうしたことはあまりいってないかもしれませんが、やはり、晩期の代表的な集落の一つであるという位置付けは間違いないと思うので、もう少しこの点を補強する資料を集める必要があるのではないでしょうか。竪穴建物の時期ぐらいはわかって、ここまでは同時期の建物があるというぐらいの確認は、少しはした方がよいのではないかという気がするのですが、いかがでしょうか。

事　務　局　：整備工事に入った段階の、整備に関する情報を集めることが目的の発掘ですので、遺跡の内容確認とは目的が異なっています。発見した際には、得られる情報を検討しながら進めたいと思います。

岡村委員長：できれば、専門として発掘をしている人たちには、そうした調査の性質の隙間をぬって、遺跡のことを明らかにするぐらいの意欲をぜひ持ってほしいなと思います。余裕のある範囲で、あるいは掘らなくてもそのつもりでその場をみれば、そこに落ちている土器からもこの竪穴建物はこの時期の建物だなというくらいの見通しがつくわけですので、その位の関心をもっていただきたいなと思います。よろしいでしょうか。次にいきましょう。

案件(2)　第１期整備事業について

（事務局説明）

岡村委員長：今までの説明で何かありますか。

馬 場 委 員　：クリーンデーではどのくらいの方が参加されたのでしょうか。

事　務　局　：企業からのご参加を含め 30 人です。

辻　委　員　：広報情報発信に関わると思うのですが、一王寺遺跡で発掘調査をしていますよね。この期間、見学者はおられますか。発掘現場をみていただくことをしてもいいのではないのかと思うのですが。

事　務　局　：一王寺遺跡の調査期間中は、コロナ禍でなければ、常時みていただくこともできると思いますが、不特定多数の方に来ていただく、立ち寄られるということになりますので、令和３年度では常にみれるということで PR するのではなく、日を決めて現地説明会を開催することで、参加者の情報も把握できるようにして公開しました。令和４年度につきましては、コロナ禍の状況をみながら開催方法を考えたいと思っております。

辻　委　員　：やはり発掘しているところをみると、多くの人が感激するのです。生をみてもらう。こういう活動もしていいのではないかと思うのです。考えてみていただければと思います。やはり遺跡というものを理解していただく面では、非常に重要なことではないかと思います。

事　務　局　：日を決めて子どもたちに体験発掘をする機会も設けています。令和４年度も同じように開催したいと思っております。

岡村委員長：南アルプス市の学芸員のフェイスブックで、掘った遺跡の竪穴住居跡を子どもたちにつくらせるという体験を開催していて、これは面白いなと思っていました。完成されたものを復元制作しないといけないような観念に駆られている。目の前にある竪穴住居跡は、昔の人が掘ったという跡ですよね。そういう跡をそっくり同じものでなくてもいいので掘って完成させる。そういう体験も面白いなと思いました。竪穴だけでなく竈をつくる、複式炉などもつくったら面白い。そうすると、炉のところは深く掘ってつくって燃やして料理したんだなと体感できるではないですか。今、バーチャルなどで、直接体験できない中で、遺跡でできることの最大のメリットは、やはり触れられるということなのです。生でみられるということです。六感で遺跡がわかるということなので、発掘体験ももちろんいいのですけれども、そうでなくて同じ竪穴住居跡をつくってみたり、貯蔵穴などをつくってみたりすることもよいのではないか。すると貯蔵穴に入ると、こんな大きいのだということもわかる。中に入ると夏は涼しいのですよね、貯蔵穴って。冬は暖かいから保存庫になることもある。そういう遺構をつくる体験もあってもいいなと思いました。南アルプス市の学芸員にほかでもやっているのか聞いたら、ほかではないとのことで、これはいいアイデアだなと紹介しました。これだと勝手につくってもらってもあまり心配しないでいいですよね。生でつくると壊したり、メンテナンスが大変だったりあるけど、写真をわたして、これと同じサイズで、さあつくってみなさいというのもいいではないですか。手間暇いらない、監督もしないでいい。そういった取り組みも体験の中に入れられたらどうでしょう。

事　務　局　：実現可能な方法があるか検討したいと思います。

岡村委員長：あるいはもう発掘が終わって壊される遺跡で、現地説明会の時に小規模で実施してみるとどうか。出土した土器をどの型式ですと説明するような現地説明会ではなく。出てきた目の前にある遺構を竪穴住居ですと説明するけど、何の実感もわかないのです。それならその竪穴をつくってみて、このくらいの広さで何人住んでいたのだろうか、炉は毎日つくっていたのかなど、とてもリアリティがあって身近に感じられるような気がしました。

髙 田 委 員 ：副読本のことでお聞きしたいのですが、これはどのような内容でしょうか。世界遺産のことか是川遺跡のことか、これはどなたが執筆して、各学校へ全学年配布するのか、それとも何年生以上に配布するのか教えてください。

事　務　局　：新５年生全員に配れるように 2,000 部印刷する予定です。内容としては、委員がおっしゃられたように世界遺産になったということと、是川遺跡の特徴を解説したものとなっています。PDF のデータも作成しますので、５年生以外の児童生徒にもみていただけるようにする計画となっております。

岡村委員長：なぜ５年生なのですか。

事　務　局　：社会科で地域の歴史を扱うのが５年生あるいは６年生だということを社会科の先生からうかがっています。学校によって５年生でも扱うようです。

岡村委員長：わかりました。どなたが原稿を書かれるのですか。

事　務　局　：原案は職員が執筆し、八戸市の社会科教育研究会の会長をされておられる当館運営協議会委員の鈴木先生にご監修いただいて、高学年がわかる表現や、実際教えている社会科の教育に照らし合わせていただきまして制作を進めました。

岡村委員長：私事ですけど、昔、朝日百科で里浜貝塚の物語を１冊の本にしたことがあるのですけど、やはりできるだけわかりやすく、子ども向けというわけではないのですができるだけわかりやすく、ちょうど小学校６年生だった娘に全部読ませて、わからない所は全部書き直して、その直前にはもちろん朝日新聞の編集者の目も通したのだけど、子どもにみせてわからないといわれたのが、やはりすごく勉強になりました。学校の先生にチェックしてもらうのもいいのですが、自分の子どもに読ませてみるのもよいと思います。父ちゃんがわからないようなことまで書いてありますから。

　大体、言葉が難しいですよね。漢字はできるだけ使いたくない、できるだけ専 門用語も使いたくない。考古学は訳のわからない専門用語を使うのですね。表現が硬い。何の意味も持っていない。誤解を招くような言葉もありますよね。「石匙」がわかりますか？石匙という石の道具があるので

すが、「石匙」と漢字で書いたら読めないし、「イシサジ」とルビをふると、石のスプーンと思われてしまう。全くスプーンとは縁もゆかりもないものなのです。専門用語は本当難しいです。ぜひそういうレベルで、いかにしたら伝わるのかというのはぜひ考えてください。おそらく一般の大人の理解は5年生以下です。5年生以下ですから、一般の人たちは。わからないと全然関心ないですし、読んでさえくれないわけです。そういう意味で、どういう言葉で発信するかというのは本当に大きな課題だと思います。

一時、考古学をわかりやすくというので、「竪穴住居」の「たて」を難しい「竪」じゃなく、たてよこの「縦」に変えるなど、色々工夫されたこともあったのですよ。そのような工夫は全く意味がないですよね。竪穴の竪を縦横の縦に変えたって全く意味がない。しかし、そうやってわかりやすくしないといけないのだということを考古学に携わる人たちがものすごく意識した時期があるのですよ。100人のための考古学など。その結果であまりよくなっていないような気がします。こうしたことを最近誰もいわなくなった。ぜひこういう、常に子どもたちが接する所の大きな課題だと思いますけれども、そういう観点から読んでみると少し固い言葉ですね。馬場委員もそう思いませんか。

馬 場 委 員 ：実物を実際みて知っていれば、いわれればわかると思うのですけれども。みたこともないものをイメージするのは少し難しい気がします。

岡村委員長：そうだと思います。今、遺跡から実際に経験をしている子どもたちがいなくなって、日本の考古学が崩れているではないですか。遺跡に興味を持つ子どもたちが文字面では、あるいは勉強のために教科書を読みこんでいく。竪穴住居という言葉を一生懸命覚えていく。1人でもみたことがないですよ。研究者の中にそういう人が出てきている。全然逆をふまないで論文、一般論を書いていますからね。これは考古学だけではなくて、ありとあらゆる世界、植物学の世界でもよく聞きますけど、研究の中でしか認識できない。DNAを取らなければわからないみたいなですね。

実際、遺跡があって遺物が出てくる。その実体験のようなことをやはり、現場でやるというのが、是川縄文館の大きな方向性、役割だと思います。常にわかりやすく実体験を持って証拠で語る。ちゃんとした実物指導で語るということです。

髙 田 委 員 ：お聞きしたいのですが、11ページの図で下のほうに川がありますよね、それは現在もあるものですか。

事　務　局　：現在も南側では水が流れています。

髙 田 委 員 ：流れているということですね。ここで水場などをつくる予定なのですね。

事　務　局　：アルファベットの「C」と書いてある場所に水場を復元します。

髙 田 委 員 ：どのような水場にする予定ですか。どこかの遺跡をモデルにするのですか。

事　務　局　：中居遺跡でみつかっている水場を復元します。

髙 田 委 員 ：全体図をみて、ここは晩期の捨て場なのですけれども、この中で、何をどのように来訪者に説明するのか。今の状態では情報が不足しているのではないかという気がするのです。先程、岡村委員長がおっしゃったように、発掘調査がされていてもデータがあまりないと、なぜここの位置に水場があって、まわりとの関係はどうなのかといった説明ができない。どの地域に晩期の集落があって、それに伴う遺構の組み合わせがどうなのか、例えば水場があることで施設がどのように利用されてきたのかなど説明する必要があると思います。植栽をして、樹木がたくさん大きくなってしまうと、何のための復元なのか伝わってこないのではないかという気もします。そうすると一旦整備をしてしまうと、それを説明することが難しい。一旦整備した部分も、それは実際の遺跡の上の部分ですから、定期的に調査をして、調査した後、まわりで整備している間にその中の一部をまた発掘してそれを来訪者にみていただく。そうするととても効果的です。なぜかというと、今つくっている復元は本物ではないので、下にそういうふうなものがあって、それを実は調査した後に、このような形で復元していますよと、その両方をみることができるのです。そうではなく実施設計をしてしまうと、再整備して終わりました、完成しました、どうぞ追加品をみてくださいで終わってしまう。私は勿体ない気がします。定期的にそこから情報発信をして、そして復元整備の作業や発掘調査も一緒にみてもらえる、こうした方法がこれからの整備に大事なのではないかと思っています。

　ただ、こういう方法は、色々制約が、例えば森の動植物が厄介で、全て取っ払ってしまわないと調査できないわけですから、非常に難しいこともあるかとは思いますけれども、もし可能であればそういうことを今のうちに検討していただいて、この部分は将来的に調査をやはりやりましょうなど、計画の中に組み込んでもらえればという気がします。特に先程、岡村委員長もおっしゃったように、遺構の部分でまだわかってないことが多いので、そういう点はまだ研究の余地があると思います。

馬 場 委 員 ：先程の説明で植林を切ってローテーションされるとのことなので、そういった体制でできたらいいのかなと思っています。ただ、植えて終わりではなく、常に手を加え続けていくことを維持し、自然林についても同じように切っていただいて対処してほしいと思います。

ブナとコナラのほうも木を切る計画でしょうか。植栽計画図でいくと、手を

入れていかないといけないところが、おそらく切っていくわけなのですけど。そのほかのＡのところも手を加える。

事　務　局　：今、現状で生えている木も是川遺跡の活用のために植えられた木ですので、トチノキの大きいものは残していくなど、そういったことは考えていこうと思いますけれども、基本的にはトチノキは育てて切っていくような扱い方をしたいと現状では考えています。

岡村委員長：私が是川に来る楽しみの１つは、柴栗が生えていて、山に行って栗拾いをしたりすることです。今回はちょうど季節だからフキノトウがどこかに生えてないかなと実は思っていて、来たら全然雪でダメだって言われましたけど。それではどこにフキが生えているのか聞いてみると、どうもみなさん知らないみたいで、御所野遺跡でもそうなのですけど、御所野の里山の中で、あそこに行くとフキが採れるとか、それからここはウルイがなっているとか、それからここはアケビの蔓がなるので今行ったら採れるか、そういうことが私の頭の中に入っていて、ひそかに遊んで家に持って帰っていたりするのです。木本だけじゃなく、ここへ来てみると色々な美味しいものがあるのですよ。草本も含めて。フキノトウはどこに生えていますかと聞いたけど水辺ですといわれたけど、そういったここの土地の現在の植生、草本も含めた現状をやはり押さえておいて、できるだけ活かしていく。それから原生にある植物を全部盛土にしてしまって、今までそこに一生懸命生えてきた、あるいはこのあたりの土地の人たちが利用したかもしれない、そういうものまで盛り土の下にしてしまうのは勿体ないなという感じはします。

　そのようなことも含めた植栽計画を具体的にやってほしい。御所野遺跡に行ったら１日中、食べるものを探して歩いて楽しめますよ。だからあそこに行くと史跡の中にどんな有用植物が生えているか、といったことの写真などが現地に置いてあって、どうも誰も見ていない感じはするのですけど。やはりこの地域での植物利用の歴史になる。民俗植物学を踏まえたような空間づくりをぜひ考えてほしいという気はします。つまりもう１回、今どこに何が生えているか、原生植生調査をぜひ実施されたらどうかなと思います。

辻　委　員　：すいぶん前から議論検討を重ねてきたわけですけども、私の認識では縄文里山づくりというものを目指していたと思うのです。とするとその整備という事業の中に縄文里山づくりという、つくるだけではなくて、それを維持してあるいは使っていく、今、岡村委員長がおっしゃったように山菜な

ども出るでしょうし、季節によって色々な利用の仕方、あるいは最終的にはどんどん採って収穫をして処分していかなければいけない。

一方では里山づくり、木を育て植物を育て、それが生産活動ですよね。そういうようなことをセットで生産から消費という。それであってこそ循環型の里山ということになるのだと思うのです。だからそういうことを整備で考えていかなければいけない。やはり縄文人というのは非常に長期にわたって、

1,000 年というようなオーダーがあって、そうした縄文里山を維持してきたことがはっきりしてきているわけですから、それを支えていく、維持していく仕組みというものを作っておかなければいけないと思うのです。そこに体験などを入れていくといいんのではないかなと思います。

髙田委員：これから整備をすると、今度は活用のことが入ってきますよね。その時には、中居遺跡だけではなく、一王寺遺跡もすごい量になりそうです。山までずっと色々なものがある。だから草木というか色んな草類はここにもあるのだけど、そっちの方が植栽を個々の水場でも確保したらいいものか、何か体験につなげていければ、全体が生きてくるのですよね。

辻　委　員：試みというわけではないのですけども、これから１年間あるいは２年間、そういうふうにこの周辺を探索するということがよいと思います。そして実態を明らかにした上で是川遺跡で取り込めるものを検討する。縄文時代でもそういうことをしていたのだと思います。ですからどんどん高い土地をつくって、ワラビを育てるとか、あれは明らかに育てるという行為だと思うのですよ。これで収穫をして、そういう土地づくりも、縄文人はやっていたと思うので、この近辺で可能な範囲でそういう取り組みを１年通して行うことはどうか。

髙田委員：ぜひ、そういうことはボランティアの人たちにも協力してもらって植物の調査をするとよいと思います。辻先生か誰かに来てもらって一緒にずっと歩いてみてもいい。御所野遺跡では最初整備に入る前に、ボランティアの人たちが植物を全部、山の中まで調査をしたのです。それを地図におとして、ここには何がある、何があったと全部一式につくってくれたんです。それが非常に役に立っています。だからぜひボランティアの人たちも巻き込んだほうが良いような気がしますね。

岡村委員長：よろしいでしょうか。せっかく青森県にも来ていただいているので、何かご意見、ご指導はありますか。

青　森　県：工程的なところを確認してもよろしいでしょうか。来年度の解体工事のほ

うは実際、着手するのは何月ぐらいですか。

事　務　局　：今年度と同じく、９月くらいに工事したいと考えております。

青　森　県　：現状変更のほうはいかがですか。

事　務　局　：発掘の方は、工事の前に行いたいと考えていますので。現場変更も前もって行うように検討します。

案件(3)　その他

岡村委員長：　少し時間がありますから、一言だけよいですか。竪穴住居の復元をすると思いますが、その実施設計も来年度ですか。

事　務　局　：いえ、もっと先になります。

岡村委員長：　私がずっとこだわっているのは、今、復元しようとしている竪穴住居ですが、同じ時期の焼失住居の事例がどこかにあるのではないでしょうか。みるとやはり上に土が乗っていたのは明白で、それから今の東京杉並区の駅の近くで掘った、柄鏡型の竪穴住居にも土が乗っていたらしく、ぐるっと回るような形の建物の上にうまく土がのっていたのもあり、是川でも土屋根と思われるものがあった。

去年の７月、是川縄文館の講座で参加者と是川遺跡のことを考えようとしたときに、是川遺跡における焼失住居の図面を持って行ったのですが、私はそこまでは話できなかった。そういう思いがずっとあったので、髙田委員にもお願いしておきたいのだけど、縄文時代の竪穴住居が全部、土屋根だったと私は思い込みたいのです。今度ここで復元されるのは土屋根ではないのですよね。

事　務　局　：まだ、決定していないです。

岡村委員長：　決定していないけれど、今まではそういう話になっている。そこをどう考えるのかというのが１つ課題だと思うので、実施設計は後でもいいのだけれども、その課題があるという事だけは認識して、そのうちに議論しましょう。

事　務　局　：はい。

髙 田 委 員　：ぜひ１回整理していただきたい。やはりここでみつかっている竪穴住居ですよね。もちろん時代も色々違うのだけども、ここの竪穴住居をもう１回整理していってほしい。全部同じというわけではないと思うのです。ここではこういう屋根葺きをしているのではないかなど根拠になるように整理してから是川の竪穴住居を考えるようにしたほうがいいと思います。もう１回、時代が違う後期のものでもいいし、中期のものでもいいと思うのだけ

れども、そもう 1 回整理してみて、それで条件が合ったら研究の手順を踏んで案をつくり、それをさらに最優先にして、残りの案を考えるような活動をやったほうがいいと思います。

今までずっとみていて、やはりほかの遺跡の整理は、あまり作業してないですよね。例えば柱穴、柱の太さなども、柱穴の大きさと実際の柱の太さはどう違うかなど。丹念にやっているとわかってくるのです。やはり自分たちの身の回りにある遺跡のデータをきちっと整理してからでないといけない。それをしないでいて、ほかの遺跡のデータを参考にしたなどが非常に多過ぎる。今、岡村委員長がおっしゃったのは本当に大事なことです。

事　務　局　：はい。作業して検討課題のご相談をしたいと思います。

岡村委員長：ほかにないようですので、これで会議を終了します。